

新しい体制で10年先を考える!

●平成28年度第2回常任理事会

今日1時30分から浦高麗和会館にて今年度2回目の常任理事会が開催されました。前回は4月下旬、川野幸夫・前同窓会会長(13回卒)の下で前任の常任理事が集まり5月の「同窓会総会」へ提出する議案を審議しましたが、今回は総会以降初めての会議であり、全員の顔合わせと現状の課題や今後の常任理事会で審議をしていくことなどが報告されました。

最初に木村恵司・新同窓会会長(17回卒)のご挨拶。



「皆様、お暑い中を常任理事会にご出席いただきありがとうございました。私は1971年に仕事の関係で住んでいた大宮を離れ、都内のマンション等で暮らし、戸建てを求める時には妻の意見に従って鎌倉の方に引っ越してしまっ

たため、埼玉とも浦高とも縁遠くなっていました。特に30代、40代はがむしゃらに仕事に取り組んでいて高校への意識などは全く無かったのですが、50代、60代となって、さまざまな分野の方々とお目にかかるとうちに浦高卒業生が多いことに驚きました。そして浦高の人材の厚さ、ネットワークの幅広さを感じたところでございます。そんな中で3年位前に川野前会長から同窓会へのお誘いをいただきました。その時は同窓会のことも知らない私でしたので辞退させていただきましたが、一昨年、どうしても副会長をお引き受けせざるを得ず受けさせていただきました。そして、今年の総会で会長に就任いたしました。同窓会の経験の少なく不慣れではございますが、若い人たちに希望のある良い社会を創っていきたいという願いがございます。浦高の同窓会活動も、川野前会長が作られた奨学財団などさまざまな事業があり、それらの事業を継続しながらも、同窓会が社会の一員として貢献できることを次の130周年に向けて考えていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。」

続いて、4名の副会長(1名欠席)、19名の常任理事(6名欠席)、2名の監事からの自己紹介がありました。常任理事は全員で25、各回卒業生の中から12名、地域職域同窓会から6名、会長推薦卒から7名となっており、その中の10名が新たに選出された常任理事であり凄く新鮮な感じでした。それでも、息子さんのPTA活動や創立90周年からの活動など、さまざまな場面で浦高活動に関わられたり、同窓会活動に関わらている方々が多いことが分かりました。私が5年前に初めて出席した常任理事会ではこうした自己紹介がなかったような気がするもので、本日の顔合わせは非常に有意義なものでした。

次に、藤野龍宏・事務局長から同窓会運営における現状の課題が報告されました。【写真下:会議風景】



一つは、現行の5つの委員会における課題です。

1. 「浦高百年の森運営委員会」では、これまでの植栽活動から維持活動、森を活かした楽しみ方の開発などへの転換。
2. 「麗和セミナー委員会」(現役で活躍しているOBが生徒たちに経験談を話す)では、年間5~6人の同窓生たちの人材探し。
3. 「知的財産委員会」(浦高の文化財の収集、保存・展示を行う)では、資料の整理とデータベース化、特に人材データベースの構築。
4. 「『麗和』編集委員会」(年1回発行の同窓会会報)では、マンネリ化しない編集。
5. 「ホームページ委員会」(更新が事務局長一人の力に頼っている)は、休眠中の委員会の再開と情報収集、発信体制の確立。

* *

もう一つは、木村恵司・新会長の新体制の下で次の10年を目指した活動です。会長は「川野前会長の残された事業を継続しつつも、同窓会の新たな役割、母校と社会に対する貢献策を皆さんと一緒に考えていきたい」と仰っています。



【写真上:正副会長の皆様】

さて、2年前の「同窓会あり方検討委員会」では、常任理事会は議決機関か執行機関かという議論がありました。結論は出ませんでした。同窓会が活発に活動するためには常任理事が執行機関の一員として委員会等に参加してそれぞれの役割を担って事業執行に関わっていく必要があるという議論もありました。既存の委員会も、同窓会の役割を果たすために組織され事業を執行している組織です。これまでの委員会を活性化させながら、新たな事業づくりへと今日から新たな体制が動き始めました。